

木もれ陽

認知症の方が生活しやすい社会

相良ホーム長の ご利用者ファースト



認知症でも当たり前前に生活する社会を創るには
 認知症の方は特別な人ではありません。普通の人
 が記憶障害になってしまっただけです。ただ、「人」は記憶に頼って
 生活しているので、「記憶」が障害されると周りの人から見ておか
 しな行動に思われてしまうのです。
 たとえば、物を仕舞ったことを忘れてしまう⇒忘れてしまったか
 ら何度も人に聞く⇒自分で仕舞った事を忘れているから人を疑う
 …となり、結果として人を困らせてしまい、社会で生活しづら
 くなってしまいます。

しかし、本当に困っているのは本人の筈です。そもそも物がな
 くなって困っているし、人に聞いても「何度も同じこと言わない
 で！」と嫌な顔をされたりします。本人は本当に心当たりがなく、
 手掛かりがない中、導き出した答えが「誰かが盗んだのではない
 か？」なのだと思います。

そのような認知症の方に対して何ができるのでしょうか。記憶
 障害等の原因が脳の老化である以上、老化を止めることは不可
 能です。そう考えると、高齢社会の日本においては認知症も当
 たり前であり、認知症をどのように受け止めるのかという社会の
 問題です。

認知症の方が当たり前前に社会に出て生活する為には、以下の2
 つの事が大切だと考えています。

① 認知症の特徴を知る事

認知症の特徴を知れば、認知症の方の行動に悪気がない事が
 わかります。すべては記憶が欠けた上で本人が導き出した解
 です。本人の気持ちになって行動の背景を推察すれば、認知症
 の方の行動は納得のいくことだらけです。

② 社会が認知症に対して寛容である事

認知症の方は失敗してしまう事があります。それらに社会が
 寛容で失敗を許容してあげる事ができれば随分と生きやす
 くなるでしょう。人間は社会的な動物なので、何が失敗で何が
 失敗じゃないかを決めるのは社会です。障害の線引きも社会が
 決めているだけです。

私達グループホームこまばは、上記①②を踏まえた上で、記憶
 が障害されたならばどのようにホームの環境を変えれば認知症
 の方が生活し易いか、というアプローチをしています。

認知症の方が生活し易い寛容さを持って、地域の人を招いたり、
 認知症の方本人が地域に出たりすることで、認知症でも当
 たり前に生活できる社会になると信じているからです。

こまばの暮らし

こまば食堂

グループホームを開放して、地
 域の方や関係者が認知症である
 皆さんと集う事で、認知症の方の地域生活作りと、地域
 の方への認知症啓発を行っています。
 地域での認知度を高めるにはどうするべきかと運営推進
 会議で検討した結果、「餅つき」が一番皆に馴染みがあり、
 認知症の方も参加しやすい！という事で、奇数月
 の第二土曜日に餅つきを行っています！



お正月



駅前のお花屋さん
 で門松を買ってきて玄関
 に付けました！
 元旦はお節と雑煮で
 のんびり過ごしました！



節分



今年も赤鬼さんがやっ
 てきました。
 「鬼は外！福は内!!」
 みんなで鬼をやっつけ
 ました。今年も福がいっ
 ぱいやってきます
 ように！



グループホームこまばの軌跡

認知症の方が社会に出て生活する。まずは、認知症の方の住まいであるグループホームがその場所になる。そんな想いで支援をしていますが、それを実践する為にこれまで行ってきた方策で効果的だったものを2つ紹介します！

① ホームのケアマネジメントを「センター方式」に変更

センター方式とは、認知症患者とその家族を含めたケア関係者が共通のシートを使用してご本人本位のケアプランを作成する方法です。これは、ケアの視点を変える大きな変更でした。一般的に本人の状態を評価する場合は客観的に観察したまま記入することが求められますが、それでは今の状態しかわからなく、本当はできるのに環境上でできていない事や本人の望むことが見落とされがちです。センター方式は、「認知症の方本人がどのように考えるだろうか」という本人の視点に立って記入するシートで、本人の気持ちになって書くことで、実はできること・やりたいことを導き出すことができます。ホームでは、入所時にご家族に記入して頂き、その後のケアプラン会議時には、ご家族と担当職員とで書いています。認知症の方は言葉で伝えられないので、周り人が本人の気持ちになって推察し、それを繰り返す事で本人の気持ちに近づいていくと考えています。

② 認知症ケア指針「こまばなら『できる』

生活支援7か条」設定

これは認知症の方が普通に生活する為の指針です。

「人」が普通に行っている事なのに、認知症になって失ってしまっている事を、沢山上げて7つに絞り込みました。逆転の発想で、記憶障害等のある方を認知症にしているのは、普通の生活ができないからであり、ホームが意識して「普通」の関わりをすることで、認知症でも普通の生活ができるようにする指針です。

さらに、7つの行動指針を約100個の具体的な行動にして、半期に一度、ホームがちゃんとできているかを職員が評価する仕組みにしました。これの良かった事は、職員の視点が切り替わった事です。介護することが目的ではなくなり、いかに介護をしないで普通の関わりができるかという視点になりました。

- 『こまばなら『できる』
生活支援7か条』

 - 一 そのままの環境で生活できる
 - 二 そのままの習慣で生活できる
 - 三 そのままの人間関係で生活できる
 - 四 役割を持つ生活できる
 - 五 関係性を持つ生活できる
 - 六 季節感を持つ生活できる
 - 七 地域に根ざして生活できる



こまば写真館

日常の写真を撮ってLINEのアルバム機能でご家族と共有しています。そうすることで、常に今のお母様のご様子がわかるようにしています。よりすぐりの写真をお楽しみ下さい！



【ホーム長交代のお知らせ】

令和6年4月より、現ホーム長 相良勇 は同法人内の養護老人ホーム白寿荘の施設長へ異動となります。後任のホーム長にはグループホームこまばの介護職員 三浦智津江が就任致します。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。